

# 1 学術用語の表記について（回答）

（昭和27年7月）

## 国語審議会

国語審議会が学術用語分科審議会からの問い合わせ「学術用語の表記について」に対して回答したものである。

この学術用語分科審議会からの問い合わせは、昭和27年7月17日付けのもので、次のとおりである。

### 学術用語の表記について（依頼）

〔学術用語分科審議会会長有光次郎〕  
から国語審議会会長土岐善麿あて

#### 1 外国語・外来語の表記について

外国の地名・人名その他一般外来語をかな書きにする場合に、その表記が確定していないため統一を欠いているので、一般方針について御意見を承りたい。〔別紙(1)参照〕（略）

#### 2 英語語尾の長音符号について

英語の語尾が er, or, ar 等のものを外来語としてかな書きで術語に採用する場合、語尾の長音符号を不必要とするものと必要とするものとの両意見がある。

なお、戦時中に作成された内閣技術院監修・全国科学技術団体連合会編の「標準用語答申案」は、長音符号を省略する方式によっている。

このことについて御意見を承りたい。

〔別紙(2)および(3)参照〕（略）

#### 3 術語のかな書きと送りがなについて

術語のかな書きは、かたかなを用いることにいたしたく、その送りがなに

については、「文部省刊行物表記の基準」(MEJ 8033)の一般基準に従い、原則として誤読・難読のおそれがある場合に限り、送る方針をとりたいので、このことについて御意見を承りたい。

[別紙(4)参照](略)

この問い合わせに対して、国語審議会は、術語部会(後に、表記部会と合同)で審議を行い、第17回総会(昭27.12.18)の議決を経て、同日付けで、国語審議会会長から先方に回答するとともに、文部大臣に報告した。

なお、その後、昭和29年2月23日付けで、学術用語分科審議会から、「回答」中の「1 外国語・外来語の表記について」の中の「c)」の例から「ダイアル」を削除してほしいという意見があるから、御配慮願いたいとの依頼があり、国語審議会は、昭和29年3月22日付けで、「『ダイアル』の語を削除する。」旨を回答している。

#### 学術用語の表記について(回答)

##### 1 外国語・外来語の表記について

a) 外来語をかな書きにする場合、さしつかえないかぎり、「ファ」「フィ」「フェ」「フォ」・「ヴァ」「ヴィ」「ヴ」「ヴェ」「ヴォ」の代りに、「ハ」「ヒ」「ヘ」「ホ」・「バ」「ビ」「ブ」「ベ」「ボ」と書く。

例 ホルマリン                      プラットホーム  
     バイオリン                      ビタミン  
     ベランダ                        ボルト

b) 外来語をかな書きにする場合、さしつかえないかぎり、「ティ」「ディ」の代りに、「チ」「ジ」と書く。

例 チンキ                              チーム  
     ラジオ                              ジレンマ

c) 外来語及び外国語の地名・人名をかな書きにする場合、原語のつづりにおける ia の a は原則として「ア」と書く。

例 ピアノ                      ダイアル  
      アジア                      イタリア

d) 外来語及び外国の地名・人名の表記の一般方針については、今後なお審議する予定である。

## 2 英語語尾の長音符号について

原語のつづりの終りの er, or, ar などをおな書きにする場合には、長音符号「ー」を用いる。ただし、省く慣用のあるものや、これから造る術語では、必ずしもつけなくてよい。

例 ライター                      エレベーター  
      ハンマ                      スリッパ                      ドア  
      エネルギー                      エントロピー

## 3 術語のおな書きと送りおなについて

a) 特に術語であることを明らかにしたい場合には、おな書きの部分はかたかなにしてもよい。

例 早メ点火                      サビ止ペイント

b) 術語の送りおなは、難読・誤読を避けるに必要なおなを送る。

例 曲ゲモーメント                      突合セ継手  
      伸ビ率                      折り尺

(別紙参照)

(別紙)

国語審議会では、学術用語分科審議会から「学術用語の表記について」という問合せがあったので、術語部会においてこれの回答を作成することとした。術語部会は単独、あるいは表記部会と合同で審議を進め、一応の成案を得たので、これを第17回総会に提出した。同総会ではこれを正式に決定し、今般回答する運びとなったのである。以下回答に補足して簡単な説明をしるす。

### 1 外国語・外来語の表記について

外国語・外来語の表記については、まず外国音をどの程度国語の音韻体系の中に認めるか(例「v」「ti」「di」…)ということと、どういうふうと呼称するか、あるいはどういう呼称をとるか(例 ヴェニス—ベニス、ヴェネチア—ベネチア、インク—インキ)という二つの根本問題があり、これらが決定してはじめてどう

いかなで書き表わすかということが問題になるのである。国語審議会としては、今後これらの問題を順次取り上げて、審議していく予定であるが、さしあたって部分的に決定した事項を a, b, c に示したのである。

a) 外来語をかな書きにする場合、「ファッション」「フィクション」「ニュー・フェース」「フォーム」などのごとく「ファ」「フィ」「フェ」「フォ」と書く必要のあるものもあるが、さしつかえないかぎり、「ファ」「フィ」「フェ」「フォ」の代わりに、「ハ」「ヒ」「ヘ」「ホ」と書きたい。ことに「フォ」は「ホルマリン」「プラットホーム」「ユニホーム」「マイクロホン」などのごとく、多くの場合「ホ」と書いてさしつかえないようである。

同様に「ヴァ」「ヴィ」「ヴ」「ヴェ」「ヴォ」も、さしつかえないかぎり、「バ」「ビ」「ブ」「ベ」「ボ」と書くことにしたいが、これらも、「オーバー」「テレビジョン」「カーブ」「ベランダ」「ボルト」のごとく、多くの場合「バ」「ビ」「ブ」「ベ」「ボ」と書いてさしつかえないようである。

b) 外来語をかな書きにする場合、「ティーパーティー」「ハンディキャップ」のごとく、「ティ」「ディ」と書く必要のあるものもあるが、さしつかえないかぎり、「ティ」「ディ」の代わりに、「チ」「ジ」と書きたい。これらもまた、「チンキ」「チーム」「ラジオ」「ジレンマ」などのごとく、多くの場合、「チ」「ジ」と書いてさしつかえないようである。

なお「ヂ」は、外来語および外国の地名・人名のかな表記では、いっさい用いないことにしている。

c) 「アジャ」「アジア」のごとく、原つづりにおける ia の a の表記には「ヤ」「ア」の両様が行われているが、これからは原則として「ア」と書くこととした。しかしながら、鉄道の「ダイヤ」のごときは、これを「ダイア」と書くことがないので、これまでどおり「ヤ」と書いてさしつかえない。

## 2 英語語尾の長音符号について

英語などの語尾の er, or, ar をかな書きにする場合長音符号「ー」をつけることは、長年の慣習であるが、近ごろはこれを省こうとする主張もある。この長音符号をつけないことは、原音により近い表記であると思われるし、能率の点からいっても、一概に退けるべきものでないが、これは単に術語だけの問題でなく、すでに慣用の久しい外国の地名・人名や外来語などの発音表記に広範な変化をも

たらずので、今にわかに賛意を表すわけにはいかない。原則としてはこれまでどおり長音符号をつけるのが適当であると考えが、すでに「スリッパ」「ドア」「ハンマ」などのごとく長音符号をつけなくて行われているものや、これから造る術語では、しいてつけるに及ばないので、その含みをもたせてある。

なお、英語の語尾の gy, py やドイツ語の語尾の gie pie (そのほかにもある) も、er, or, ar の場合と同様に、長音符号「ー」をつけるものと考えて、「原語のつづりの終りの er, or, ar など」という表現をしておいた。(例 エネルギー、エントロピー)

### 3 術語のかな書きと送りがなについて

a) 国語の表記法として最も広く行われているのは、漢字かなまじり文であり、かなは普通にひらがなを用いている。かたかなは現在では主として外国の地名・人名や外来語や擬声語などを書き表わす場合に限り用いられる。術語の表記についても、文部省著作の教科書ではおおむね以上の慣習に従っているが、特に術語であることを明らかにしたい場合には、かな書きの部分にかたかなを用いてさしつかえない。

b) 送りがなについては、文部省著作の教科書では、比較的によく送る方針を採り、公用文ではなるべく送らないことになっている。文部省刊行物の送りがなはこの両者の中間をいくものといえよう。このように送りがなが各方面でまちまちなのは決して望ましいことではないが、送りがなというものは書く場合と読む場合とでは立場が相反するものであるから、統一することがなかなか困難なのである。国語審議会としても今後の審議を予定しているが、さしあたって、術語の送りがなについては、難読・誤読を避けるに必要な程度のかなを送ることは妥当な処置であると考え。

#### 〔編者注〕

- ◎ 英語語尾の長音符号の問題については、その後、学術用語分科審議会の決定事項として、それぞれの専門分野では「学術用語集」の当該各編に示す用語を標準とするが、「2. 英語語尾の長音符号「ー」は、用いても略しても、誤りではないことにする。」という方針が打ち出されている。

◎ 国語審議会の報告「外来語の表記について」(昭和29年3月)は、「諸案集成その1」に収録した。